

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第43号 2010年11月30日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24 - 2211

「クリスマスを迎えるにあたって」

岐阜済美学院宗教総主事 笠井 恵二

今年ももうすぐクリスマスを迎える季節になりました。日本では12月24日になりますと、仏教徒であろうと無神論者であろうと、家族や友人たちと集まってクリスマスケーキとシャンパンを準備し、メリークリスマスと言ってお祝いするのが普通です。わたしには他宗教の友人も沢山いますが、日本ではお坊さんの家でも神主さんの家でもクリスマスをお祝いするのが普通だそうで、これはもはや国民的な行事になっているわけです。

神主をやっている友人から聞いたのですが、神道の八百万の神の考え方からすれば、イエス・キリストは八百万の神のひとりがパレスチナに現れたということになります。だから神のひとりがこの地上に生まれたことを祝うのは、神道の立場からすればむしろ当然のことなのだそうです。



デパートなどでもクリスマスセールが盛んに行われ、さまざまなサンタクロースが街に現れます。もはや今日では、クリスマスはキリスト教のお祝いの日というよりも、歳末の風景になっています。

そのような日本の中で、わが中部学院はキリスト教主義の大学でありますから、本学独自のクリスマスの迎え方をしなければなりません。幸いわ

が大学のグレースホールにはフランス・ガルニエ社になる輝くばかりのパイプオルガンが備えつけられておりまして、だからクリスマスの礼拝と祝会の日には、普段あまり礼拝に出席できないひとたちも多数参加して荘厳な礼拝式をもつことができるわけです。厳粛な礼拝とその後ポローニアでもたれる楽しい祝会の思い出は、この学園における生活の忘れることのできない宝となることでしょう。そして将来いつの日か、その思い出とともにこのクリスマスの本当の意味、わたしたちの救い主がこの世にひととして現れてくださったということの深い宗教的な意味を悟る日をむかえてくださることを願ってやみません。

キリスト教の真髄は、「キリストは真の神であると同時に真の人である」ということにあります(紀元451年「カルケドン公会議」で正統教義と決定)。つまり、神の子であるキリストがこの地上にわれわれと同じ姿をとり、肉体的にも精神的にもわたしたち人間と同じさまざまな悩みや苦しみをかかえて生き、われわれの模範を示してくれたということでありまして、クリスマスの本当の意味はそこにあるのです。わたしたちも、2010年前にこの世に現れたイエス・キリストを見上げつつ、日々の使命を全うしていきたいものであります。



"Healing Hands" (癒しの手)

タイ・キリスト教協議会牧師 サナン・ウッティ (Rev. Sanan Wutti)

訳：アジア保健研修所 (AHI) 中島 隆宏



聖書：マタイによる福音書 9章 35～38節

イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病氣や患いをいやされた。また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」 (聖書 新共同訳)

Dear Brothers and Sisters in God,

In Thailand, there are about 1,000,000 people who have been lived in HIV, and there were 500,000 people died because of HIV/AIDS, it has transmitted 20,000 new people affected, average daily around 40 cases affected.

HIV/AIDS is a modern disease which is destroying human life as the war used to do that. How HIV/AIDS destroyed human life?

Dear is a girl, who is 18 years old. When she was very small, her father was infected with HIV, and he drove his car with her mother, her younger sister, Lily, and Dear, and fell over a cliff.

He died, and three of them survived. Afterwards, her mother remarried, and left two children with their grandmother. They were both HIV positive as a result of her mother's infection.

Dear got to know the staff of CAM since she was 5 years old, because they visited her neighbors, and then their family. CAM realized her grandmother was caring for 2 small children who were HIV positive.

Her sister, Lily, died when she was 5 years old and she was 7 years old. CAM has continued to help them almost every month for almost 10 years, and have helped them with many things, such as school costs, and have always been source of encouragement and advice for grandmother for Dear.

This is the picture when Dear attended training sessions with other young people living with HIV, like her. She is now studying at a college to be a senior school teacher to help young people to be good citizens.

親愛なる主にある兄弟、姉妹のみなさん：

タイでは、100万人が HIV に感染し、そのうち 50 万人がすでに死亡しました。また、毎年 2 万人が新たに感染していますが、一日あたり、55 人が新たに感染しています。

HIV・エイズは戦争と同じように人の命を奪う現代の病気で、HIV・エイズはどのように人びとの命を奪うのでしょうか。

ディアは 18 歳の女性です。彼女がまだ小さかったときに、お父さんは HIV に感染し、母親と妹のリリーと彼女の 3 人を車にのせてかけから落ち無理心中を試みました。

お父さんだけが亡くなり、3 人は生き残りました。その後、母親は再婚し、二人の子どもは、おばあさんが育てることになりました。二人は HIV に感染していました。母親が感染していたからです。

ディアは 5 歳のときからタイ・キリスト教協議会エイズ・ミニストリー (CAM) のスタッフを知っていました。CAM は近所の人と彼女たちをそのころから訪問していたからです。CAM は、おばあさんが HIV に感染した幼い 2 人の孫の世話をしているのを知りました。

リリーは 5 歳で亡くなりました。ディアはそのとき 7 歳でした。CAM は 10 年間にわたり毎月、ディアとおばあさんを訪問し助けました。学校の費用を支援し、いつもディアのためにおばあさんを励まし、アドバイスをしました。

この写真はディアが CAM の研修に参加したときのもので、他の青年たちも HIV 感染者です。ディアは今、高校の教師になるため大学で勉強をしています。若い人たちが良い市民になるため、学校で教えたいと思っています。

桐が谷通信

God gives each of us to have many miracles in our life. I would like you to focus on our hands. With God's hands: "He spit on the ground, made some mud with the saliva, and put it on the man's eyes. Then the man born blind can see".

Please look at our hands with many miracles which God gave to us. For example, when we use our hands to heal people living with HIV/AIDS by love and holy touch, they will feel better and realize their meaningful life to people in this world.

For us, my family responds God's Love and Call to us before we were about to leave for USA for my children's future. We decided to work for CCT AIDS Ministry in Thailand for only one year. But, it ended up over 20 years.

Because, like a Good Samaritan, we could not walk on by other side of the road where half dead person, like People with HIV/AIDS were left.

With my family's hands, we have harvested more people's souls from people living with HIV/AIDS to live in God's Love and Peace. In this world, His important message to each of us today for people living with HIV/AIDS as follows: "Not love with words or tongue, but with actions and in truth." (1John 3:18). By action with our "healing hands".

神は私たち一人ひとりにその人生において多くの奇跡を起こされます。みなさん、私たちの手に注目してください。神の手によって、「イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。そして、「シロアム 『遣わされた者』』という意味の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。」(ヨハネによる福音書 9章 6-7節)

私たちの手を見てください。この手で神様は多くの奇跡をおこされます。たとえば、愛ときよめられた手で HIV・エイズの人びとをいやすとき、その人々は幸せを感じ、自分たちも世界の人々に対し意味のあるいのちを生きているのだ、とわかるのです。

私たちの場合は子どもたちのためにアメリカに移住しようとしたときに、神様の呼びかけがあり、それに応えました。タイに残ってタイ・キリスト教協議会のエイズミニストリーで働くのは、最初は1年のつもりでした。それがいつのまにか、20年になったのです。

なぜ、タイの HIV・エイズのために働くのか。それは、良いサマリア人のように、死にかけた人、HIV・エイズの人を残して、道の向こう側を通っていくことができなかったからです。

私たち家族の手で、HIV・エイズの人々が神様の愛と平安の中で生きていけるように、多くの魂を救うことができました。

こんにち私たちが HIV・エイズの人々のために大切な、神様のメッセージは次のものです。「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」(ヨハネの手紙一 3章 18節) 私たちの手による行動をおこしましょう。

クリスマス献金のお願い

宗教総主事 笠井 恵二

今年も主イエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、主イエス・キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことに因んで、少しでも私たちが自身の一部を人々の幸せのためにささげ合うことを実践する季節です。今年も、例年献金をしている諸団体、および日本キリスト教協議会が取りまとめている「平和のきずな献金」に送ることにいたしました。みなさまのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

尚、昨年度は、156,611 円の暖かい献金をいただき、16の施設・団体、活動に献金いたしましたことをご報告します。

「2010年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部クリスマス献金」

真に平和な共生社会の実現に向けて

献金予定先： 日本キリスト教協議会「平和のきずな献金」(ネパール「平和を愛する子ども達の家」、ルワンダ「和解のためのプログラム」、アイヌ奨学金、在日外国人学校ほか)
キリストへの時間 岐阜いのちの電話 愛知老人コミュニティセンター
(福) あゆみの家 野宿生活者支援の会 (福) 親隣館 ほか

「敵を愛せよ」はありえないか？（その貳）

志村 真（中部学院大学短期大学部）

イエスの中心的な教えの一つ、「あなたの敵を愛せよ」を聞くとき、多くの人が「そんなのムリ、ムリ」とか「ありえんしー」という受け止め方をするのがフツーだと思います。前号では、この教えをそれぞれガチンコで理解した、キング牧師をはじめとする数人の宗教者を紹介しました。今回は、そのキング牧師が主導した「公民権運動」に青年時代に参加したウォルター・ウイंक先生を紹介したいと思います。

ウイंक先生は、公民権運動での体験を基に、聖書を非暴力の視点で読み直す仕事を進められました。具体的な行動として、暴力が吹き荒れるラテン・アメリカ諸国や南アフリカ共和国で「非暴力セミナー」を開催するなど、平和運動にも関わられました。そうした研究と実践の成果を分かりやすくまとめたのが『イエスと非暴力』（新教出版社、2006年）です。この書物の「敵を愛せよ」理解をまとめてみましょう。

まず結論から

キング牧師の考えを継承して、ウイंक先生は、「敵を愛する」とは「敵」をも人間として見ることだと言っておられます。ユダヤ教およびキリスト教の人間観によれば、神はすべての人間をご自分の「像（かたち）」に創造された。つまり、すべての人間は等しく、いわば「神の子」として造られたと考えられています。そうしますと、「敵」も人間ですからその者もまた「神の子」ということになります。そのことを認めることが「敵を愛する」ということ。これがウイंक先生の結論です。そこで、先生の展開を以下に3点、見て行きたいと思います。

人を「鬼」と見なすのが「敵視」の心理

まず、人が誰かのことを「敵」として見る「敵視の心理」について考えてみましょう。ウイंक

先生は、「敵視」には次のような心理が働いていることを明らかにします。「私たちが敵のことを鬼のように思い、恐ろしい名前をつけ、極悪のものに見なすとき、回心を可能とする神のあの良きものが彼らの内にも宿っていることを否定することになります。」つまり「敵視」には、「敵」の人間性を剥ぎ取り、人間とは別の何か恐ろしい存在、すなわち「鬼」としてとらえる心理が働くことを指摘。その上で、こうした心理を「デモナイゼーション」と呼びました。敵を人間ではない「デーモン＝鬼」と見なすことによって、憎しみと暴力が正当化されるのです。

ですから逆に、「敵を愛する」とは、そうした「デーモン化」の心理プロセスを止めることになります。たとえ「敵」であっても人間性がある。そのことを認めることが、先生によれば「愛する」ことなのです。

自分の悪いところまで「敵」のせいにする

そもそも人はどのようにして「他者」を「敵」とか「鬼」とか見なしていくのでしょうか？ ウイंक先生は、そうした「敵視」「鬼視」の心理プロセスについて述べています。誰かを「敵」とするとき、人はその相手の「善いところ」を無視し、「悪いところ」を最大限に拡大してとらえようとします。一方で、人は自分の「善いところ」は拡大し、「悪いところ」は極力、無視しようとするでしょう。それだけではありません。自分の「悪いところ」を相手に押し付けることによって、自分の悪をなかったことにする心理が働くと、先生は言います。「私たちは誰か他人を悪と見なす一方で、無意識的に自分自身の悪をその人物に投影するのです。」

私たちが誰かのことを「敵」ととらえ、さらにその「敵」を「鬼」と見なすほどに憎むためには、ある心理的な集中化が必要だというわけです。つ

まり、そもそも敵に由来する「悪」をことさら意識するばかりでなく、自分の問題性を相手に押し付ける。心理学的に言うなら、相手に「投影」「投射」して、相手の「悪」をどこまでも肥大化させる、というわけです。

「敵」を「鬼」と見なす以上、その者に変化は期待できません。人間なら発達も成長もするでしょう。しかし、「鬼」にはそれは期待できません。しかも、決して成長することのない「非人間的存在」として攻撃の対象となります。「他者」を「人格」と見るとき、攻撃衝動は抑えられます。しかし、それが「鬼」や「人間以外の生き物」であれば、その衝動は実行に移されます。「戦争心理学」が、「敵」を非人間視するとき、実際に発砲する率を上げることができると実証している通りです。

どうせ変わらないとの決め付けは「差別」と同じ次にウィンク先生は、誰かを非人間的な存在として「敵視」し、さらに「あの人たちは変わらない」と見なすとき、それは他者を劣った存在として決めつける「差別」と同じ構造になっていると指摘されます。たとえば、「人種差別」とは、人種の別によって優劣を人間の間置くことでした。そして、その優劣は不変である、と決めつけることでした。優秀な人種はどんどん成長し進化する。しかし、劣等な人種はどこまでいっても劣ったまま成長しないとの決め付けです。ですから、人種差別の存在した地域では、劣等とされた人々には教育は提供されませんでした。成長しないのだから教育しても意味がない、と差別したのです。そこでウィンク先生は、「敵」に対して、あるいは

誰に対しても、「あの人はどうせ変わらない」と決めつけた瞬間、それは人種差別主義と同じ考え方になっていると指摘したのです。

その上で、すべての人間が変化し成長する可能性を有することを、力を込めてこう記しておられます。「イエスの教えは、...すべての人間の中に神が働いてくださることを前提にしておられました。神の像(かたち)が完全に消え去って無くなってしまったような個人なり集団などないはずです。神を信じることは、たとえ過去がどのようなものであっても、誰もが変化する可能性があることを信じることなのです。」

愛とは誰に対しても相手の中に人間性を認めることです。人間性を認めるとは、「神の像(かたち)」として他者を見ることです。「敵」をも含むすべての人間に「神の子」としての尊厳が備わっていることを認識することです。自分にもいたらないところ、悪いところがあるにもかかわらず神さまが許してくださったように、「敵」もまた神さまによって変えられることを、今この時点で見通すことでしょう。もちろん、いったん「敵対関係」に入ってしまうと、相手が変わることを認めることは簡単ではありません。それでもなお、その者の中に人間性を認め、いつかは必ず変わると信じようとする。そのような意志として、ウィンク先生は「愛」をとらえられました。

かつて、キング牧師は「敵」をも愛する愛の力を信じて歩かれました。そのキングを継承し発展させた人々が多くおられます。まことに愛の力は偉大です。キング牧師がこう語られた通りに。「愛には世界がまだ知らない力がある。」

チャペル礼拝（チャペルアワー）について

これまでのチャペルアワーの内容が、本学ホームページに掲載されておりますのでぜひご覧下さい。



中部学院大学・中部学院大学短期大学部ホームページ

URL: <http://www.chubu-gu.ac.jp/>

左側のメニューから

「中部学院について」 「キリスト教教育について」 「チャペルアワー」とお進み下さい。 (<http://www.chubu-gu.ac.jp/about/christianity/chapelhour/>)

2010年度 クリスマス礼拝 「キリストの涙」

岐阜済美学院 学院長 小野 経男 先生



日 時：12月16日(木)
11:00~12:15
(第2時限の講義は行いません。)
会 場：関キャンパス
グレースホール

キリストの最初の涙

エルサレムから3キロほど離れたベタニヤの村で、イエス・キリストが愛していたマリヤとマルタの弟ラザロが死んだ。

「マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。『主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。』そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、言われた。『彼をどこに置きましたか。』彼らはイエスに言った。『主よ。来てご覧ください。』イエスは涙を流された。」(新改訳聖書、ヨハネ 11:32~35)

キリストの二度めの涙

「エルサレムに近くなったところ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて・・・」(同、ルカ 19:41) エルサレムの将来を憂いての涙。

「おまえも、もし、この日のうちに、平和のこゝろを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかつたからだ。」(同、ルカ 19:42~44)

イエス・キリストの悲しみの涙の預言は、十字架上のイエスの死から40年後に、ユダヤ戦争(AD 70年)で現実となった。ローマ帝国に対するユダヤ人の反乱に始まり、ローマの大軍がエルサレムに侵攻。飢餓戦術によりエルサレムは孤立、完全に敗北した。(フラビウス・ヨセフス「ユダヤ戦記」)

「私」なき涙

聖書の中でキリストはご自身を「私」と呼んだことはなく、自分のために泣いたこともない。キリストの涙は、相手と共に感しての涙。しかし、キリストと共に泣いた人は居ない。人々はキリストの思いと同じになることはできなかった。

(聖書の引用は「新改訳聖書」 ©新日本聖書刊行会)